

修士論文（要旨）

2008年7月

パソコンメールに見られる依頼の中日対照研究

指導 堀口純子 教授

国際学研究科

言語教育専攻

20641416

楊雪丹

目 次

第1章	問題意識と研究目的	1
1.1	問題意識	1
1.2	研究目的	1
第2章	先行研究	1
2.1	中国語の依頼行為に関する先行研究	1
2.2	日本語の依頼行為に関する先行研究	3
2.3	依頼行為の中日対照に関する先行研究	4
2.4	メール使用に関する先行研究	6
第3章	予備調査	7
3.1	予備調査の概要	7
3.2	予備調査の結果	7
第4章	本調査	11
4.1	本調査の概要	11
4.1.1	略語の使用基準	12
4.1.2	中国語メールの日本語訳のルール	12
4.1.3	受信者にかかる依頼の負担度の分類基準	12
4.2	メール文の機能分類	16
4.3	分析と考察	18
4.3.1	依頼の負担度が「小」のメール文機能分析	18
4.3.2	依頼の負担度が「小」のメール依頼表現分析	29
4.3.3	依頼の負担度が「大」のメール依頼表現分析	38
4.3.4	考察	42
4.3.4.1	依頼の負担度が「小」のメール文機能考察	42
4.3.4.2	依頼表現考察	44
第5章	まとめと今後の課題	46
	参考文献	49
	資料	
資料1	メール文機能分類	-1-
資料2	中国語メール一覧	-33-
資料3	日本語メール一覧	-34-
資料4	依頼表現一覧	-37-

要 旨

日本人が中国人に依頼された時、しばしば中国人の「あつかましさ」を感じ、逆に、中国人が日本人に依頼された時、日本人の「丁寧すぎ」を感じることもあるようである。中国人と日本人の依頼に対する考えの違いがその主な原因だと思う。そこで、その違和感の緩和のために教育現場で何ができるかさぐるため、依頼の仕方の中日異同を研究することにした。

また近年、インターネットの急速な普及に伴い、パソコンメールでのやりとりも極めて一般化してきている。パソコンメールに使用される言語表現は、書き言葉と話し言葉との中間に位置すると考えられる。時には会話にも近い依頼がパソコンメールに見られることがあるが、会話による依頼との違いは何か。それを明らかにすれば、語学教師や学習者を含め、中日の異文化交流に役立つことが期待される。

本研究の目的は、中日両国の異文化交流への貢献を目指して、中日の依頼の仕方の違い、さらに、パソコンメールと会話に見られる依頼の仕方の違いを明らかにすることである。

本調査では、中国人が書いた中国語によるパソコンメール 107 通と日本人が書いた日本語によるパソコンメール 102 通、合わせて 209 通のメールを、発信者と受信者の上下関係、親疎関係、依頼の負担度別に分けて、負担度が「小」のメール文機能分析考察と負担度が「小」と「大」のメール依頼表現の分析考察をした。

結果として、主に以下のような傾向が伺えた。

- ①中国語メールには、日本語メールに見られなかった独特なものが三つ見られた。「感謝」、「交換」、そして「命令形」である。「感謝」は「疎」のほうにより多く使用され、「命令形」は「親」のほうにより多く使用される。
- ②中国語メールが日本語メールより感性的な頼み方をする。その表れとして挙げられるのは、「親しみ形」と「お祈り」は中国語メールが日本語メールより多用していることである。
- ③中国語メールにおいての「お願い形」の「麻煩・煩」は負担度が小さい場合親しい人にはあまり使わない。
- ④中国語メールでは、伝統的な手紙の結びとしての「お祈り」は若者に敬遠されるが、中年の知識人に愛用される。
- ⑤負担度により依頼表現を変える特徴は日本語メールのほうが明らかである。
- ⑥日本語メールは上下関係にあまり影響されず、比較的丁寧な頼み方をするのに対し、中国語メールでは目上から目下への頼み方があまり丁寧でない。
- ⑦中国語メールはたとえ目上に対してでも、あまり「わび」をしない。また、親疎を問わず、「わび」と「お願い」をあまりしない。日本語メールでは、親疎を問わず、年末年始のような決まった時期以外に、「お祈り」はあまりしない。依頼メールの結びとして、「お祈り」より「お願い」のほうが一般的である。
- ⑧「希望形」は日本語メールにおいては疎遠な人にはあまり使用しないが、中国語メールにおいては、疎遠な人にも使う。

パソコンメールと会話に見られる依頼の違いは主に以下の 3 点である。

- ①中国語の文頭敬辞「請」は、親しい間柄なら対面会話の場合使わないが、メールでは

使うようになる。

②日本人は対面会話なら人に何か依頼するとき「てください形」をあまり使わないようであるが、メールなら、依頼の負担度が「小」で断られる可能性が極めて低い場合、「てください形」はかなり頻繁に使われる。

③いつも丁寧な依頼表現を使っていると思われる日本人でも、メールを使う場合には丁寧度を落とすことがある。

なお、今回の調査はデータが少なく、特に依頼の負担度が「大」のデータが少なかったので、上記の結論を一般化するのは危険である。今後はより多くのデータで分析考察を深めていきたい。また、会話、パソコンメール、手紙という三つの手段による依頼の違いをより明らかにするには、ほかの調査方法を考える必要があると思う。最後に、一つのメールに複数の用件を依頼する場合と同じ用件を複数の依頼文で依頼する場合と、一つの依頼文に複数の依頼表現が入っている場合も重要な考察対象であるが、今回はデータが少ないので割愛し、今後の課題としたい。

参考文献

- 安藤美保 (2000) 「手紙における依頼のストラテジー—日本語母語話者と中国人日本語学習者の比較を中心に—」 愛知教育大学大学院修士論文
- 太田一郎 (2001) 「パソコン・メールとケータイ・メール—『メールの型』からの分析—」 『日本語学』 9月号 pp. 44-53
- 岡田安代 (1997) 「日本人の依頼における『期待』の体系化の試み—『頼みにくさ・頼みやすさ』に関する調査より—」 『愛知教育大学研究報告』 第46輯 pp. 165-173
- 柏崎秀子 (1993) 「話しかけ行動の談話分析—依頼・要求表現の実際を中心に—」 『日本語教育』 79 pp. 53-63
- 蒲谷宏、川口義一、坂本恵 (1998) 『敬語表現』 大修館書店
- 木村英樹 (1987) 「依頼表現の中日対照」 『日本語学』 10月号 pp. 58-66
- 坂本恵、川口義一、蒲谷宏 (1994) 「『行動展開表現』について—待遇表現教育のための基礎的考察—」 『日本語教育』 82 pp. 47-58
- 施信余 (2006) 「日本語における『依頼・断り』のコミュニケーションについて—日本人女子大学生同士の電話会話を分析対象に—」 『早稲田大学日本語教育研究』 8 pp. 51-62
- 謝オン (2001) 「談話レベルからみた『依頼発話』の切り出し方—日本人大学生同士と中国人大学生同士の依頼談話から—」 『東京外国語大学日本研究教育年報』 5 pp. 77-102
- 鈴木佳苗 (2005) 「インターネット利用時に必要とされる社会的スキル：大学生に対する調査」 『日本パーソナリティ心理学会大会発表論文集』 14 日本パーソナリティ心理学会 pp. 105-106
- 関根和枝 (2007) 「『～てください』の機能について—『～てください』は依頼か—」 『言語教育・コミュニケーション研究』 2 昭和女子大学大学院 pp. 81-95
- 田中ゆかり (2001) 「携帯電話と電子メールの表現」 『現代日本語講座 2 表現』 pp. 98-127
- 谷口龍子 (2005) 「日本語と中国語の『依頼』に関わる—考察—『～てください』『お～ください』と“请”を中心に」 『日本研究と日本語教育におけるグローバルネットワーク』 香港日本語教育研究会、向日葵出版社 pp. 161-169
- 中川良雄 (1998) 「日本語依頼の表現—依頼のストラテジーと日本語教育—」 『研究論叢』 50 京都外国語大学機関誌編集委員会 pp. 218-229
- 浜田麻里 (1995) 「依頼表現の対照研究—中国語における命令依頼の方略—」 『日本語学』 10月号 pp. 69-75
- 堀口純子 (1997) 『日本語教育と会話分析』 くろしお出版
- 正宗美根子 (2000) 「日本語の命令依頼表現について」 『北陸大学紀要』 24 pp. 115-124
- 山岡政紀 (2004) 「日本語における配慮表現研究の現状」 『日本語日本文学』 14 創価大学 日本語日本文学会 pp. 17-39
- 楊雪丹 (2004) 「依頼のストラテジーの中日対照」 『日本語教育と異文化理解』 3 愛知教育大学国際教育学会 pp. 61-69
- 廬万才 (2001) 「中国語の依頼表現と対人関係」 『麗澤学際ジャーナル』 9 (2) pp. 25-35
- 若生久美子、神田富美子 (2000) 「中国語における依頼表現の丁寧度」 『中国語学』 247 pp. 294-310